

## 身のまわりの革

私たちの身のまわりには、たくさんの革製品があります。衣服、はき物、バッグ・かばん、ベルト、財布、手袋などの身に付けるものだけでなく、サッカーボールや野球のグローブ、スパイクなどのスポーツ用品、ソファなどの家具、太鼓や三味線などの楽器というように、さまざまな形で私たちの生活に溶け込んでいます。



革は動物の皮ふからできています。ですから一枚の革でも、例えばお腹の部分と背中部分で柔らかさが違います。また、同じ種類の動物でも、育った環境や、雄と雌の違いによって、手触りや色の染まり方が異なります。人それぞれに個性があるように、シワやキズ、ホクロ、血管の跡、虫さされの跡などが残っていることもあります。こうした個性は、人工の素材では表現することができない深い味わいにつながっています。

そして、革は長く使い込むことによって、色に深みやツヤが生まれ、美しさを増していきます。こうした変化を楽しめる点も、革製品が身のまわりで使い続けられる理由のひとつです。

## 革の特徴

革はたくさんの繊維でできているため、とても丈夫で長持ちします。革特有のしっとりとした手触りも、繊維構造から生み出されています。

革はまるで呼吸をするように、周りの環境に合わせて水分を調節します。そのため、身に付けるときに快適な環境を保ってくれます。

その他にも可塑性や剛性・透湿性といった革ならではの特徴を活かし、さまざまな製品となって人々の暮らしに役立てられています。



### 可塑性 (かそせい)

水で濡らした革に力を加えて乾かすと、その形のまま固まります。こうした性質を可塑性といいます。革でものを作る時に便利な特徴です。

### 剛性 (ごうせい)

曲げたりねじったりしても形が変わりにくい性質を剛性といいます。革は、この剛性にもとの形に戻ろうとする性質が加わって、美しい形のままできることができます。



### 透湿性 (とうしつせい)

水分をためない性質を透湿性といいます。革は、布より空気を通しにくく、透湿性が高いため、冬でも温かい上着や靴などに使われています。

もっと  
知りたい! **革のはなし**

Kids' Leather Programs

## 革と皮の違い

「かわ」は漢字で書くと「皮」と「革」の二種類が使われます。バナナの皮、皮ふなどは「皮」を使い、革のバッグ、革財布などには「革」を使います。この違いは为什么呢？

「皮」はそのままだと、硬くなったり腐ったりしてしまいます。そこで人々は、「皮」を長持ちさせる工夫をしてきました。これが「なめし」と呼ばれる手法です。「皮」は「なめし」により長く使える「革」として生まれ変わります。

私たちは、動物の肉を食べて命をつないでいます。動物の「皮」も「革」に加工することで無駄なく使用し、暮らしに役立ててきました。



一般社団法人 日本皮革産業連合会

〒111-0043

東京都台東区駒形1-12-13 皮革健康会館7F  
tel. 03-3847-1451 fax. 03-3847-1510



<http://leatherkids.jlia.or.jp/>

<http://www.facebook.com/leatherkids>

<http://twitter.com/leatherkids>

## 革の歴史～人と革～

昔、人々は狩りをして生活を営んできました。植物や魚、そして動物を狩り、食べた後に残る毛皮や皮を加工し、寒さや衝撃から身を守ったり、ものを運ぶために利用してきました。

およそ200万年も前の遺跡から、皮を革に加工した道具が発見されています。



皮を革に生まれ変わらせる「なめし」技術の始まりは、食べ残った皮を噛んで柔らかくし、煙でいぶす方法だったといわれています。

その後、「なめし」技術の発展により、革は衣服やばき物としてより身近なものとなりました。

今から4,000年前の古代文明の人々は革製のサンダルをはき、書き物の道具として革の巻物を用いていたことがわかっています。

日本でも、寝具や馬具、武具などを中心とした日用品に鹿革が用いられてきました。

世界の各地で、いつの時代でも、人々の暮らしにとって革は欠かすことができない素材であったことがわかります。



## 革ができるまで

皮をなめして革とすることにより、丈夫になり、色を染めるなど加工しやすくなります。

なめしには多くの方法があります。なかでも近年の主流となっているのが「タンニンなめし」「クロムなめし」と呼ばれるなめし方法です。

これらは、革になった後の使用目的によって使い分けられています。



### タンニンなめし

古代から行われているなめし方法で、木の皮に含まれるタンニンと呼ばれる成分を取り出して、皮に含ませる方法です。完成までには時間がかかります。

### クロムなめし

薬品を混ぜてなめす方法で19世紀後半に考えられました。クロムなめしはできあがり早く、より柔らかく作ることができます。

その他にも、タンニンなめしとクロムなめしを併用した複合なめしや油なめし、くん煙なめしなどがあります。

革ができるまでには多くの工程があり、長いもので3か月以上もかかります。



## 革の種類と特徴

革として利用できるのはセキツイ動物の皮だけです。なかでもほ乳類や虫類がほとんどで、次に鳥類・魚類と続きます。

それぞれの動物の持つ模様や特徴を手にとって感じてみましょう。

